

史料に基づく高松の景観復元

高橋良尚・吉川眞・田中一成

Landscape Restoration of Takamatsu Based on Historical Material

Yoshinao TAKAHASHI, shin YOSHIKAWA, Kazunari TANAKA

Abstract: Takamatsu City is a port town which has been spatially formed and developed by the seaside for a long time centering on the Takamatsu castle, one of the three typical water castles. However, with the urban modernization from the castle town to the modern city, Takamatsu City changed the coastline remarkably and lost the past image. Therefore, in this study, the authors try to grasp the regional and particular scene lost in the urban modernization based on the historical materials, and to build the database about historical environment. Finally they try to restore the lost landscape by using 3D urban model.

Keywords: 史料 (historical material), 高松 (Takamatsu), 景観復元 (landscape restoration)
3次元都市モデル (3D urban model)

1. はじめに

長い歴史と伝統を有し、豊かな自然に恵まれたわが国には、歴史的価値を有する建造物と自然的環境とが一体となった美しい景観が現存している。これらの景観は、多くが地域独自の風土に依存し、その地域の歴史や伝統を象徴するものである。しかし、日本では、戦後復興期と高度経済成長期を通じて生産性重視の都市基盤整備が行われ、量的に豊かな社会が形成され、画一的な景観が各地で生み出された結果、地域固有の景観が多く失われる他、地域の誇りや愛着の喪失をもたらしている。

一方、近年では量的拡大のみを追求する経済成長が終息に向かい、精神的豊さや生活の質の向上を重視する成熟社会へと社会情勢が方向転換す

るとともに、人々の価値観も変化してきている。2004年には、美しく風格のある国土の形成、潤いのある生活環境の創造および個性的で活力のある地域社会の実現を図るために「景観法」が制定された。また、2008年には、城や神社・仏閣などの歴史的建造物の保全や活用といった取り組みが促進され、地域固有の風情、情緒、たたずまいなど、歴史的風致を維持・向上するために「歴史まちづくり法」が制定された。

このように、歴史的風土によって形成された地域の景観が重要視されはじめ、保護から保全、さらにはもとの位置・形態に甦らせる復元へと考え方がシフトしつつある。

2. 研究の方法と目的

歴史の維持、継承および景観への調和をテーマに歴史的な空間を現代の都市に活かすためには、地域の歴史を読み解くと同時に、歴史的景観の性質を明らかにする必要がある。本研究では、温暖

高橋良尚 〒535-8585 大阪市旭区大宮 5-16-1

大阪工業大学大学院 工学研究科都市デザイン工学専攻

Phone: 06-6954-4109 (内線 3136)

E-mail: yoshinao@civil.oit.ac.jp

な気候や瀬戸内海に面する地理的条件から、海辺に都市を切り開き、「日本三大水城」と称された旧来から海上交通、海交易が栄えた高松を研究の対象地とする。そこで、過去の地図や景観図など、さまざまな史料群から、近世・高松を復元し、現在との景観対比から都市景観の将来像への手掛りを得ることを目的とする。

具体的な研究方法としては、GIS や CAD/CG に代表される空間情報技術を融合的に活用し、高松の空間把握を行う。広域的な視点では、国立歴史民族博物館で公開している、旧高旧領取調データベースと空間データを連携し、近世・高松の讃岐国での位置づけ、および石高の分布状況から地域差の把握を行っている。狭域な視点では、「日本三大水城」と呼ばれた高松城周辺地域についての変遷を旧版地形図を基に把握している。また、景観図に描かれた名所の分布状況と主要道である街道を把握することで互いの位置関係を明らかにしている。さらに、収集・整理した景観図と図面を用いて、近世と現代の3次元都市モデルを構築することで、景観対比を行っている。

3. 讃岐国

讃岐国は現在の香川県に位置している。645年の大化の改新後に讃岐国となり、東から大内、寒川、三木、山田、香川、阿野、鵜足、那珂、多度、三野、豊田の11郡に区画された。以後、豊臣秀吉の家臣であった生駒親正が讃岐国の領主になり、香川郡に位置する香東川の砂州に城を築くことで、城下町高松として機能させた。その後、中・東讃は松平家の高松藩、西讃は京極家の丸亀藩と多度津藩の3つの藩で讃岐国を治めた。そこで、旧3藩それぞれの領土を空間的に把握した。

具体的には、旧高旧領取調データベースから各藩領内の村落を抽出し、GIS 上に位置情報として定位した（表-1、図-1）。讃岐国は、高松藩が8郡、246村、丸亀藩が5郡、111村、多度津藩が2郡、20村により領地がそれぞれ構成されてい

ることが確認できた（高松藩、丸亀藩で2郡、丸亀藩、多度津藩で2郡重複している）。

表-1 旧高旧領取調データベース一覧

番号	旧国名	旧郡名	旧村名	ふりがな	旧領名	旧地名	旧 高	市町村コード1	市町村コード2
1	讃岐国	香川郡	西浜村	にしま	高松藩領分	香川県	389.467010	37201	
2	讃岐国	香川郡	宮脇村	みやわき	高松藩領分	香川県	172.932007	37201	
3	讃岐国	香川郡	中ノ内村	なかのうち	高松藩領分	香川県	1190.536087	37201	
4	讃岐国	香川郡	東浜村	ひがしはま	高松藩領分	香川県	1144.660034	37201	
5	讃岐国	香川郡	福岡村	ふくおか	高松藩領分	香川県	591.247986	37201	
6	讃岐国	香川郡	松郷村	まきのう	高松藩領分	香川県	649.456970	37201	
7	讃岐国	香川郡	今里村	いまざと	高松藩領分	香川県	325.164001	37201	
8	讃岐国	香川郡	伏見村	ふしみ	高松藩領分	香川県	956.129003	37201	
9	讃岐国	香川郡	多賀村	たが	高松藩領分	香川県	676.402015	37201	
10	讃岐国	香川郡	上多賀村	じょうたが	高松藩領分	香川県	1308.751953	37201	
11	讃岐国	香川郡	太田村	おおた	高松藩領分	香川県	1277.172974	37201	
12	讃岐国	香川郡	鹿角村	かづのく	高松藩領分	香川県	445.118988	37201	
13	讃岐国	香川郡	鹿角村	かづのく	高松藩領分	香川県	768.581970	37201	
14	讃岐国	香川郡	宮村	みや	高松藩領分	香川県	274.648002	37201	
15	讃岐国	香川郡	田村	たむら	高松藩領分	香川県	405.840002	37201	
16	讃岐国	香川郡	名村	なむら	高松藩領分	香川県	488.834016	37201	
17	讃岐国	香川郡	百相村	ひゃくじょう	高松藩領分	香川県	700.072998	37201	
18	讃岐国	香川郡	百相村	ひゃくじょう	法然寺領	香川県	604.007019	37362	37201
19	讃岐国	香川郡	寺井村	てらい	高松藩領分	香川県	100.003998	37362	37201
20	讃岐国	香川郡	寺井村	てらい	大瀬寺領	香川県			

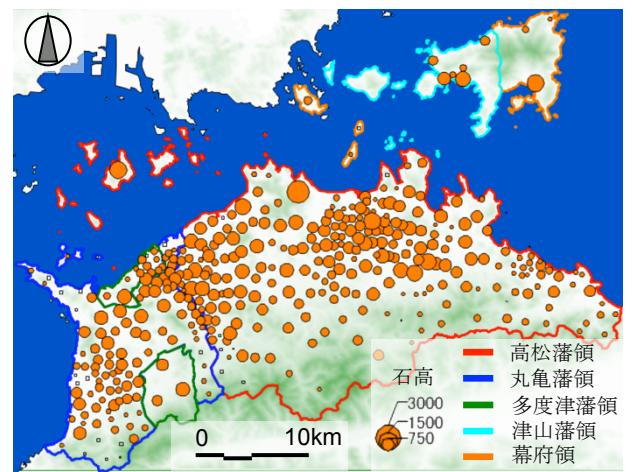


図-1 石高の分布状況

4. 高松の変遷

高松の固有な都市空間を基礎づける海岸線の変遷を2次元的に把握・整理することが重要な意味を持つ。そこで、高松城が日本三大水城と称された近世に高松と呼ばれていた地域において各年代の空間把握を行うために、過去の史料群をもとに特定を行っている。

具体的には、1800年頃に描かれた高松城下全城の武家屋敷住人名や町家名を把握する用途で作成された地図である「高松御城下絵図」を幾何補正することで、GIS 上に定位を試みている（図-2）。「高松御城下絵図」は城下を把握する目的で作成されたことから、城内に関しての詳しい記載はされていない。そこで、作成年代が同時期であると推測され、内堀の詳細な配置が描かれている「高松御城全図」を定位し、トレースを行い分類

している。明治期以降に関しては、旧版地形図を活用することにより把握している（図-3）。

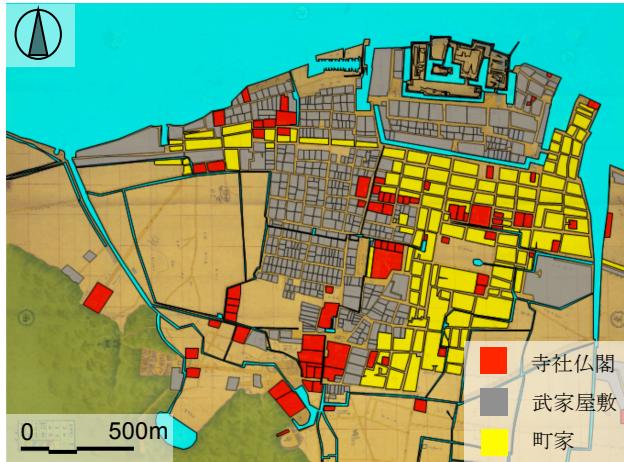


図-2 古地図にみる空間構造

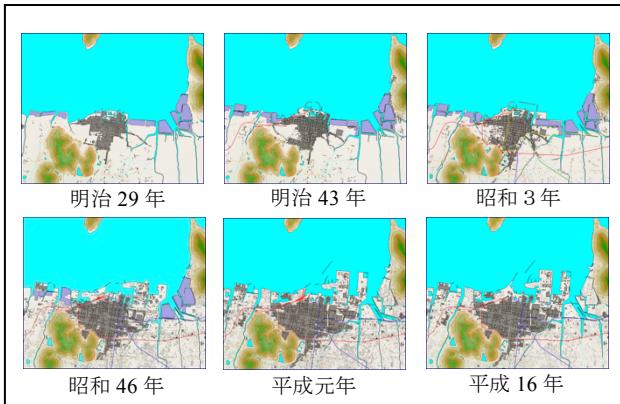


図-3 旧版地形図にみる変遷

5. 景観図

名勝図会とは、古典的な和歌や俳句を引用しつつ名所の見どころを紹介する人々の物見遊山の案内図であり、また、参勤交代や旅行で地域を訪れた人びとの郷里への土産であった。つまり、当時の景観を再現するうえで名勝図会は貴重な史料であり、たとえ描いた絵師のアレンジメントや誇張があるにせよ、それは人びとが持つその場所を象徴する景観のイメージと捉えることができる。

そこで、高松の名所や旧跡をはじめとする数多くの風景が描かれている讃岐国名勝図会を GIS 上に定位した。讃岐国名勝図会は、讃岐国を東部より 5 郡を前編、残りを後編、続編にまとめた 3

部作であり、全 15 卷 20 冊で刊行予定であったが、上梓されたのは前編のみである。このことから、前編 5 卷、大内、寒川、三木、山田、香川の五郡の名所の定位を行っている。

具体的には、描かれている対象を高松市が公開している、高松市地図情報システム「たかまっぷ」と国土地理院が公開している、「ウォッちず」を利用し位置情報を CSV ファイルに整理し、GIS 上でマッチングさせた（表-2、図-5）。さらに、当時の主要道である街道の位置関係を把握している。なかでも、神社仏閣が多く存在する高松城下に注目した。とくに、高松城の外堀に架かる常磐橋は阿波国、伊予国に通ずる街道の拠点であった。

表-2 CSV ファイル

番号	題名	ページ	対象	住所（たかまっぷ参考）	緯度（ウォッちず参考）	緯度（ウォッちず参考）	緯度（ウォッちず参考）	現在も存在するか
1	藤尾八幡宮	P301	藤尾八幡宮	高松市西植田町59	34.223417	134.075889	134.075889	○
	蓮華院		蓮華院	高松市西植田町40	34.228083	134.068500	134.068500	○
	尊福寺		尊福寺	高松市東植田町2	34.231472	134.069194	134.069194	○
	神内城跡		神内城跡	高松市西植田町36	34.231944	134.077199	134.077199	○
2	三谷八幡宮	P207	三谷八幡宮	高松市三谷町210	34.271778	134.069583	134.069583	○
3	八幡宮	P301～P311	八幡宮	高松市三谷町210	34.271778	134.069583	134.069583	○
	加瀬良神社		加瀬良神社	高松市三谷町210	34.271778	134.069583	134.069583	○
	三谷寺		三谷寺	高松市三谷町2110	34.271778	134.069583	134.069583	○
	三谷城跡		三谷城跡	高松市三谷町2690	34.267111	134.072444	134.072444	○
	三谷池		三谷池	高松市三谷町2663	34.268222	134.069194	134.069194	○
4	吉園寺		吉園寺	高松市林町21-2	34.297778	134.064500	134.064500	×
	正大寺		正大寺	高松市林町971	34.299000	134.067417	134.067417	○
	上多肥村櫻木八幡宮		櫻木八幡宮	高松市多肥上町15	34.291917	134.057528	134.057528	○
	西瀬寺		西瀬寺	高松市多肥上町	34.291917	134.057528	134.057528	○
5	田代神社	P327	田代神社	高松市田代町1050	34.284633	134.064333	134.064333	○
	自性院		自性院	高松市由良町	34.284633	134.064333	134.064333	×
	覺度		覺度	高松市由良町	34.284633	134.064333	134.064333	×
	由良城跡		由良城跡	高松市由良町940	34.285083	134.080389	134.080389	○
	蓮正寺		蓮正寺	高松市由良町910	34.283722	134.090250	134.090250	○
	真楽寺		真楽寺	高松市由良町119	34.283306	134.087667	134.087667	○

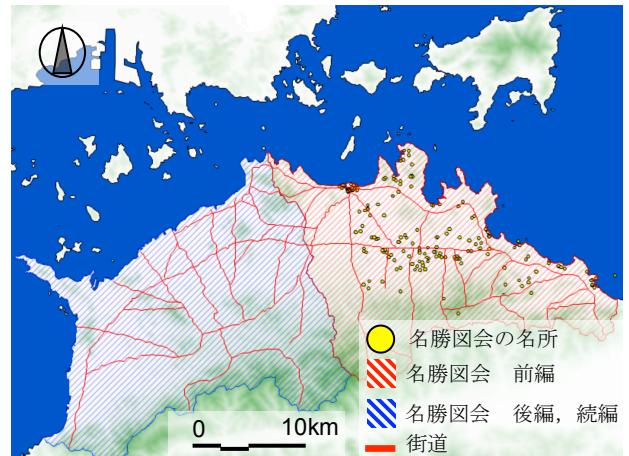


図-5 街道と名所の位置図

6. 都市モデルの作成

都市モデルを作成するにあたり、近世・高松は、領主の居城である城郭を中心にして成立した封建都市である。現代の日本の主要都市は、ほとん

どが城下町から発展しており、とくに城郭は都市の歴史性を伝える代表的な遺構である。その中でも天守閣は、都市のシンボルの1つであり、各絵図には城下町のランドマークとして存在していた。そこで、「史跡高松城跡（天守台）」に記載の図面を活用して、高松城の主要建築物である天守閣の復元を行った（図-6）。さらに、町家・橋梁モデルを配置することで、近世・高松の3次元都市モデルを復元した。なお、屋根形状は景観構成において重要な要素であるため、城郭の反り屋根の表現を行い、蓋然性の向上を図っている（石田ほか, 2012）。

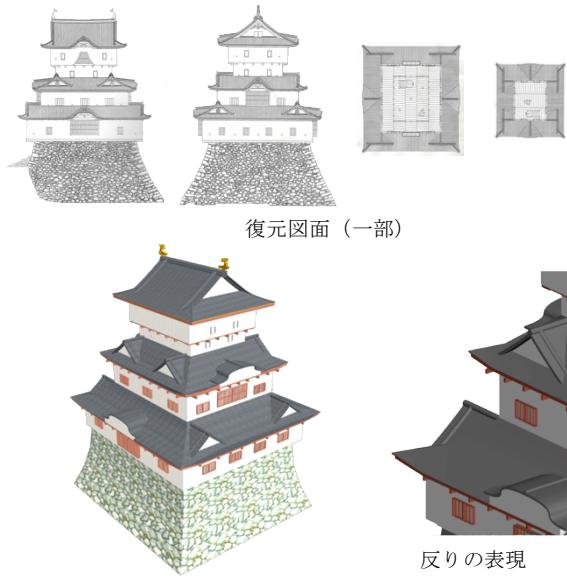


図-6 高松天守閣の復元

7. 景観対比

これまでに構築してきたデータベースとCG技術を活用することで近世・高松の都市モデルを構築し、城郭の外堀に架かり、各街道の結節点であった常磐橋界隈からの景観対比シミュレーションを行った（図-7）。近世では、常磐橋界隈からの景観として高松城天守閣が眺められたことがシミュレーションからも読み取れた。しかし、現代の常磐橋界隈からの景観は外曲輪内に高松中央郵便局、高松三越などの高層ビル群によって、当時の景観が感じられなくなっていることが近世・高松の3次元都市モデルと現地写真を比較することで明らかにした。

比較することで明らかにした。



図-7 街道と名所の位置図

8. おわりに

近世・高松の都市モデルにより、当時の景観を復元・把握することができた。また、同一視点場における当時の景観と現在の景観を比較対比することができた。

今後の課題として、添景の配置などにより、都市景観をビジュアルに視覚化させることができられる。また、局所的な景観の復元を積み重ねることで、近世・高松の全体像が浮かび上がり、当時の景観を解き明かすことにつながると考えられる。これらを通じて、香川県の潜在的な個性や魅力を探るきっかけになることを期待している。

参考文献

- 梶原景紹 (1999) : 「讃岐国名勝図会<版本地誌大系20>」, 臨川書店刊
 高松市 高松市教育委員会 (2012) : 高松城跡（天守閣）, 高松市教育委員会
 石田圭太・吉川眞・田中一成 (2012) : 絵図判読による近世なにわの景観復元, 地理情報システム学会研究発表大会講演論文集, Vol.21, F-1-2.pdf